

神の国を見られる人 ヨハネによる福音書3:1~17 / 李正雨師

信徒は二つの世界の中で生きていけると言えるでしょう。信徒はこの世の中に属していますが、同時に信仰によって神の国に属しているからです。神さまはご自分に従っている信徒にご自分の国を見ることができるようになっていただきます。そして、神の国を見られる人は、この世ではなく、神の国に対する希望を持って、その教えに従って生きていきます。今日の福音書が扱っていることも、これと同じ脈絡です。今日の福音書に登場しているニコデモという人は、イエスさまを神の人(教師)として認めています。それで彼は、イエスさまのもとに来て、イエスさまから神さまの言葉を聞こうとしました。しかし、彼は、イエスさまの言葉を理解することができませんでした。イエスさまが新たに生まれることについて言われたからです。今日の福音書3節の言葉です。「イエスは答えて言われた。『はっきり言っておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。』」でも、ニコデモはイエスさまのお話を理解できなかったようです。新たに生まれるという意味が何なのか、神の国を見ることが何なのかに分からなかったようです。そこで彼はイエスさまに、「年をとった者が、どうして生まれることができますでしょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるのでしょうか」と尋ねたのです。

皆さん、このニコデモの質問をどう思いますか。あまりにも子供っぽい質問なので、何か変だとは思いませんか。今日の福音書でのニコデモは、ファリサイ派の人であり、ユダヤ人の議員であると紹介されています。当時のファリサイ派の人々というのは、知識人を代弁する人であり、ユダヤ人の議員というのは、社会的な身分が高いということの意味しました。簡単に言うと、かなり学んだ人という意味です。宗教的に、社会的に、尊敬される人ということです。しかし、なぜ彼は、イエスさまにこのように子供っぽい質問をしたのでしょうか。本当に新たに生まれるということを知らなかったのでしょうか。私たちは、理解することができます。新たに生まれるということは、イエスさまに従う信徒になるということであり、信徒になると、神の国を見ることができるといえることでしょうか。私たちは理解することができるのに、なぜニコデモは、これを理解することができなかったのでしょうか。時代と文化の違い、教育が違ったからでしょうか。

ニコデモがこのような質問をした理由を理解するためには、まず、ユダヤ人の救いのための考えを念頭におくべきです。ある意味では、ユダヤ人にとっての救いは、当然のことでした。神の国も当然ユダヤ人に与えられるものでした。なぜなら、神さまはアブラハムを通して、ユダヤ人の神になってくださったからです。神さまは、ユダヤ人たちを祝福し、敵や伝染病のような有害なものから彼らを守ってくださいました。敵の侵略がなかったわけではありませんが、それは、ユダヤ人の信仰的な誤りによるもの、すなわち、神さまの罰でした。しかし、その罰は長くは続かず、神さまはユダヤ人たちを苦難から救ってくださいました。神さまとアブラハムとの約束は、ユダヤ人は、神の民であることを示していたからです。なぜニコデモが「新たに生まれなければ」という言葉を理解していなかったのか、皆様はお分かりでしょう。ユダヤ人、すなわち神の民は、自分たちが信仰によって新たに生まれる必要はないと思っていたからです。彼らは、神の国は自分たちに自然に与えられるものだと思っていました。

しかし、イエスさまはそうではないとおっしゃいました。今日の福音書5節で、「はっきり言っておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない」と言われました。なぜイエスさまは、こう言われたのでしょうか。アブラハムと神さまとの約束を認められなかったのでしょうか。イエスさまがこのように言われたことには、人間の利己的な心があるからです。ユダヤ人たちは、神さまとの約束を表面的に打ち出していましたが、自分たちは神の民としての義務を果たしていませんでした。彼らは心を尽くして神を愛していなかったし、隣人を自分の体のように愛していませんでした。異邦人を軽蔑し、弱い者を助けませんでした。安息日の意味をごまかして、やもめと子供には厳しくしました。そうしながら約束

に基づいて建てられた律法を出し、神の民としての祝福を期待していました。このようなユダヤ人に、イエスさまは新たに生まれることを言われました。新たに生まれなければ、本当の神の民にならなければ、神の国を見ることができないということでした。

イエスさまは6-7節でニコデモにこう言われます。「肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。」

ファリサイ派の人々であったニコデモも、他のユダヤ人のように、自分たちが選ばれたと思い、血統によって救われると思っていたでしょう。しかし、イエスさまは、「肉から生まれたものは肉である」と言われました。血統に生まれたものは血統だけです。それが神の国に入られる特権になるわけではありません。洗礼と聖霊によって改めて生まれなければ、イエスさまの教えに従って生きなければ、誰も神の国を見ることができません。これは洗礼を受けた私たちも同じでしょう。洗礼式は、私たち信徒にとって貴重な儀式ですが、この儀式が私たちを救うものではありません。儀式は儀式だけです。洗礼を受けた者として、聖霊によって生まれた人が神の国を見ることができるのです。だから、この世に生きているクリスチャンは、罪と戦い、世の誘惑に負けないように、神さまの言葉の上に堅く立たなければなりません。誰よりも神さまを恐れ、聖霊の助けがあるように求めなければなりません。洗礼式が私たちのすべてになってはなりません。聖霊によって生まれた人生を生きることが、私たちのすべてになるべきです。

しかし、ニコデモは、この言葉を理解することができませんでした。それで、9節でニコデモは「どうして、そんなことがありえましょうか」と尋ねたのです。イエスさまは11節でこう言われます。「はっきり言うておく。わたしたちは知っていることを語り、見たことを証しているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れない。」私たちが生きているこの世には、多くのニコデモがいます。彼らは、知識人として尊敬され、人格的にも偉く、社会的にも高い地位の人たちです。彼らはこの世をリードして、人々に影響を与えます。しかし、彼らはイエスさまに従うことや信じることを躊躇します。聖書については良い評価を下し、教会はいい場所だと思いますが、イエスさまの存在については確信せず、疑います。そして「どうして、そんなことがありえましょうか」と教会に尋ねます。このような人々にイエスさまは、「あなたがたがわたしたちの証しを受け入れない」と言われます。イエスさまが彼らに証しをしなかったわけではありません。彼らが受け入れなかったのです。だからイエスさまは12節で、「わたしが地上のことを話しても信じないとするれば、天上のことを話したところで、どうして信じるだろう」と言われたのです。神の国は、証しを受け入れた人、新たに生まれた人だけに見られるものです。残念ながら肉に属している人は、「どうして、そんなことがありえるか」分かりません。

しかし、イエスさまはニコデモを諦められませんでした。イエスさまは、地上のことも信じないニコデモに、天上のことを教えてくださったからです。ご自分が十字架につけられることとご自分を通した永遠の命について教えてくださいました（14～15節）。そして、このすべてのことが神の御心だと教えてくださいました。16～17節の言葉です。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」

ユダヤ人たちは、神の子、すなわちメシアが来られると、この世を裁かれると思いました。そして、ユダヤ人たちが中心になった新しい世界を造られるのだと思いました。しかし、これはユダヤ人の間違っただけの欲望であるだけでした。イエスさまは、ご自分が遣わされたのは、裁きではなく、救いのためだと言われます。この世を救うためにイエスさまは来られました。このため、神さまはイエスさまをお遣わしになり、イエスさまは聖霊を通して人々の心に変化を起こさせて、聖霊によって生まれさせるのです。そしてこのことは、私たち、神の国を見ることが出来る人によって守られ、維持されます。このような連合を通して、教会はいつまでも存在するのであり、多くのニコデモに、「どうして、そんなことがありえるか」と証しするのです。この連合ちを通して、イエスさまの福音が伝わるように、主の御名によって祈ります。アーメン